

「スズメバチとの対決 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「敵陣」(キイロスズメバチの巣)の様子はよくわかった。次に大切なことは、「駆除に適した時間帯」だ。キイロスズメバチは、気温が比較的低い「朝～午前中」「午後遅く～夕方」に盛んに活動する。主な「活動」は、幼虫の餌を探しに行くことだ。つまり、この時間帯には、「巣を留守にしているハチ」が多いことになる。しかもハチの活動も活発なので、駆除には不向きな時間帯ということになる。念のために地元の別荘管理業者に聞いたら、「その大きさの巣なら、自分で駆除できます。ただし、必ず日没後に作業してください」ということだった。スズメバチの巣の駆除は、絶対に昼にはしてはいけないのだ。



次に必要なのは「武器」だ。武器は「スズメバチ専用の殺虫剤」に限る。通常のアエヤカをやっつける殺虫剤では、ほとんど効果がないばかりか、下手に使うとハチを怒らせ、集団攻撃性が増すだけなのだ。私はいろいろと調べた結果、写真の2種類の薬剤が最適と

わかり、2本ずつ購入することにした。だいたい1本1000円だったので、費用は4000円ということになる。右側の黒い缶のものは、最大12mのジェット噴射ができるものすごい殺虫剤で、スズメバチの巣を丸ごと全滅させ、再び営巣することも防げるらしい。



ノズルも、一般的な殺虫剤とはまるで異なっている。説明書によると、噴射は12mまで届き、翅をはばたかせる能力を奪う成分が入っているので、飛んでいるハチを落とす効果があるという。ただし、「巣を丸ごと駆除したい場合は、3~4mの位置から直噴射するように」とも書いてある。



噴射レバーも、普通の殺虫剤のものよりもずっと大きい。しかも、消火器のように「安全ピン」がついている。噴射力が強いので「誤爆」を防止するためのものだ。巣を退治する場合は、「小分け噴射」ではなく、一気に噴射する必要がある。一気に噴射すると、30秒ほどで全量がなくなるらしいので、相当な威力だ。

この説明書にも「巣の駆除は、必ず日没後に行ってください」と書かれている。まずは、これで夜間に駆除を試みることにした。